

# 小学校段階からの TOEFL Primary®

テスト受験について考えること

関西大学初等部教諭 梅本 龍多

受験していない子どもへの波及効果の期待

児童理解と授業改善に役立つ

子どもの夢を膨らませる

学習環境を進化させる

子どもを褒め、学習意欲を高める

教師の立場から見た  
TOEFL Primary® テストの良さ



*Danke sehr*

# 1.はじめに

いきなりですが、子どもの作文から紹介します。この作文は、勤務校の6年生女子Y子が、5年生のときにTOEFL Primary® Step 2を受験し見事10 Badges (リーディング・リスニング両セクション5 Badges) を取得して、表彰されたときのことを思い出しながら書いたものです。教室前の廊下で、表彰されたことを伝えたときの彼女の全身で喜ぶ姿が今も忘れられません。(右の賞状はGC&T公式ウェブサイトより)



TOEFL Primary® Step 2 賞状 (見本)

私は生まれる前から、お母さんに英語力を身につけてほしいと思われていました。そのため、私は、幼稚園はインターナショナルスクールに通いました。その頃は、まだ習いたての日本語より少し英語の方が話せる程でした。

小学校2年生で英検準2級に合格し、次第に英語への自信が少しずつついていきました。また初めてTOEFL Primary® Step 2を受けました。結果は、メダル10個中8、9個で少し悔しい思いをしました。

そして、5年生。英検準2級合格からの3年間、私が進んでする英語へのチャレンジは英検2級1次試験合格や外部団体主催のスピーチコンテストで3位になったこと以外にあまりあ

りませんでした。

しかし、お母さんから「またTOEFL Primary® Step 2を受けて、自分に自信を持たないか」と言われました。結果は目標であったメダル10個中10個を得ました。私はうれしさと同時に自分への自信も少しつきました。目標を達成できたうれしさ、そして英語への自信が改めてついた私は、TOEFL Primary® Step 2で満足するのではなく、TOEFL Junior® に挑戦しようと思います。これからも自分への自信、チャレンジ精神を忘れず、将来の夢である先生になることに向けて、自分を磨いていこうと思います。

Y子の将来の夢が叶うことを心から願います。本校では、TOEFL Primary®テストを2017年から始めました。その取り組みを通して、筆者が気付くようになった効果等について、ここでは、

(1)子ども(2)保護者(3)教師の立場に立ってあくまで推測しながらではありますがまとめていきたいと思っています。

## 2.子どもの立場から見たTOEFL Primary®テスト

インターナショナルスクール幼稚園出身者など英語が得意な子どもの中には、積極的に外部試験を受けたがらない子どもがいます。「ある英語資格試験の上位級はすでに合格しているけど、次の級は自分にとって簡単ではなく合格できるかどうか自信がありません。また、それ用の勉強もしていません。万が一、受験して不合格になったら恥ずかしくすぎます。合格した他の友だちにばかにされたらどうしようとか悩みます。だから、テストは受けたくないのです。」このような思いが2、3年続き、気がつけばもう小学校卒業ということになってしまいます。インターナショナルスクール幼稚園出身ということで、英語については何でもできるように周りの友だちから思われてしまう。彼らには彼らなりの悩みがあります。彼らには、それらを乗り越えるような何らかのきっかけが必要なのです。

私は、そのきっかけの一つに、TOEFL Primary®受験があると思います。このテストは彼らの得意なリスニングとリーディングであり、合格か不合格かのプレッシャーとストレスがないのです。純粹に、世界基準に照らし合わせた自分の実力が明らかになるのです。一度受験すれば、「思っていたよりもよくできて楽しかった」「自分の英語力がどの程度か知ることができた」「先生や家族にほめてもらえてうれしかった」と。だから、「前回よりもよい点を取りたい」「前回 Step 1だったが今回はStep 2に挑戦したい」「10バッジをとって表彰状をもらいたい」と、子どもが小学校段階でもう一度輝きを取り戻すきっかけとなるのです。改めてY子の文章に戻りたいと思います。Y子は、

「目標を達成できたうれしさ、そして英語への自信が改めてついた」こと、そして、「これからも自分への自信、チャレンジ精神を忘れず、将来の夢である先生になることに向けて、自分を磨いていこうと思います。」と自分の思いをまとめています。もし TOEFL Primary®を受験していなかったらと考えると、子どもが自分の力で今までの自分を越え、さらに学習意欲を高める機会をタイムリーに与えることの大切さを痛感します。Y子にとっては、TOEFL Primary®受験がそれでした。

では、インターナショナルスクール出身者でない子どもの場合はどうでしょうか。高学年ともなると、英語資格試験の上位級に合格する子どもも少なくありません。このようないわゆる「伸び盛り」のタイミングで、今まで受験したことのない TOEFL Primary®に挑戦することは、さらに自信をつけることにつながり、学習意欲を高めることにつながることでしょう。試験結果よりもまず新しいものに挑戦する気持ちを十分に評価してあげなくてはならないでしょう。とはいえ、結果も大切です。テストはすべて英語で進められるし、ある程度の長さの文章を推測しながら聞き取らなければならないなど、自信をなくす子どももいるでしょう。しかし、合格・不合格はありません。それが救いになる子どもも多くいます。もっと事前に勉強しておけばよかったと振り返る子どももいます。事前勉強が多様にできるように参考書や問題集の充実を望む声もあります。過去問を解くなど、事前に学習できる教材の充実を子どもたちは望んでいるようです。

### 3.保護者の立場から見たTOEFL Primary<sup>®</sup>テスト

保護者の中で、他の英語資格試験の受験経験はあっても、TOEFL<sup>®</sup>の受験経験がある人は多くないのではないかと思います。また、アメリカやカナダに留学の経験のある保護者の数も限られています。さらに、TOEFL Primary<sup>®</sup>となると、受験したことはもちろん、その名前を聞いたことすらない保護者が大半でしょう。TOEFL Primary<sup>®</sup>を身近に感じる人の数はまだ少ないということです。

そんな中でも、Y子の母親のように自分の子どもに受験を勧める保護者の数は確実に増えてきていると感じています。それは、子どもの将来の留学や入試優遇を視野に入れ、その準備を少しでも早く始めたいという気持ちがあるからでしょ

う。つまり、TOEFL Primary<sup>®</sup>→TOEFL Junior<sup>®</sup>→TOEFL iBT<sup>®</sup>と継続して受験し、将来の夢を実現させる子どもにとって無理のない計画を立てているということです。そこには、Y子の感想にあったように保護者の「挑戦してみたら」や「自信を高めたら」などの長期的に子どもの学習意欲を持続させるような励ましの言葉がけが効果をより高めることにつながっていくのでしょうか。テスト結果が合否ではないので、子どもも学習状況の伸びを認め、それまでの努力をねぎらう言葉がけをし、さらに次に向けての対応策を子どもと共に考えるのです。保護者に留学経験などがある場合は、自身の経験談を話してあげることがとても子どもにとって良い刺激となるでしょう。

### 4.教師の立場から見たTOEFL Primary<sup>®</sup>テスト

教師の立場としてどのようなことが TOEFL Primary<sup>®</sup>テストを通してできるのか、2022年8月8日に文部科学省のホームページで公開された「英語教育・日本人の対外発信力の改善に向けて(アクションプラン)」(1)に沿って述べたいと思います。このアクションプランでは、取り組むべき項目として、1.学校英語教育の底上げ 2.教員採用・研修の改善 3.大学入試・社会との接続 4.国際交流体験活動・文化発信の推進 5.海外留学の促進の5本の柱を掲げています。ここでは、1.学校英語教育の底上げと5.海外留学の促進の2つを取り上げます。

1.学校英語教育の底上げの「④学校外における自主的・自発的な学習意欲の向上の項目では、授業時間だけで必要な学習量を補うことは現実的でない。という記述があります。国公立小学校の一般校では、小学校中学年が週1時間の

英語活動の時間、高学年が週2時間の英語科の授業を実施しています。これ以上の時間数を増やすには、学校を離れた家庭や地域でも英語に触れる時間を増やす工夫が必要となります。それは個々の家庭に任せられているとはいえ、教師も子どもたちに良質な学校外での学習の機会につながることを紹介することができるはずで、その一つとして、英語に興味のある子どもに TOEFL Primary<sup>®</sup>テスト 受験を薦めることはいい方法です。受験すると決めた子どもは、自主的に家庭で過去問に挑戦したりして結果的に学習機会を増やすこととなります。

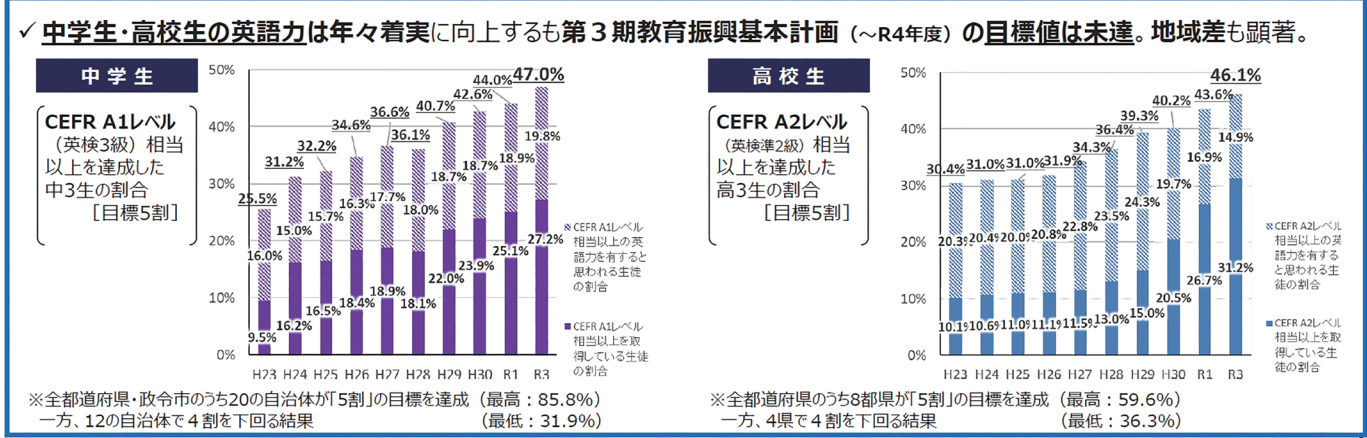
また、学校図書館に、英語の絵本や簡単な読み物、Picture Dictionary 等(いずれも音声CD付きが望ましい)を蔵書に加え、貸し出し可能にするなど、子ども達に今までにない英語との接し方を提供することもいい方法です。すべて、教

師の働きかけが子どもを変えらるきっかけとなります。

次に、「⑤中高生の英語力に関する新たな目標値の設定」の項目では、中高生の英語力は、

全体としては、目標とするレベルに達した生徒の割合が着実に向上しているが、地域差が顕著とあります。（関係データ①参照）

**関係データ①**



ここでの話題は中高生となっていますが、小学校レベルでも地域差が存在する可能性があります。外部試験の受験機会を増やしたいと考えている小学校教員の悩みの一つが、試験会場が住んでいる地域から遠いであるとか、日程的になかなかよいタイミングで受験できるとは限らないなど、地域・時間という壁が存在することです。それが能力差につながりかねないという地域もでてくるのではないのでしょうか。受験生にとって都会は便利で、田舎は不便なのです。TOEFL Primary®テストは、その壁を打ち破ることが可能です。教師は、勤務校を試験会場に指定してもらい、学年に関係なく希望者はもちろん、学年全員とかを対象に学校の都合の良い日時に試験日時を設定することができるのです。こうなれば、都会でも田舎でももう関係ありません。さらに、病欠等の理由で受験できなかった子どもの受験料は、支払う必要がないなど、子どもや教師にとって多くのメリットがあります。地域差は絶対的なものではなく、工夫することで「地域」をなくすことができるのです。こういった地域差をなくす取り組みは、教育委員会単位で考えな

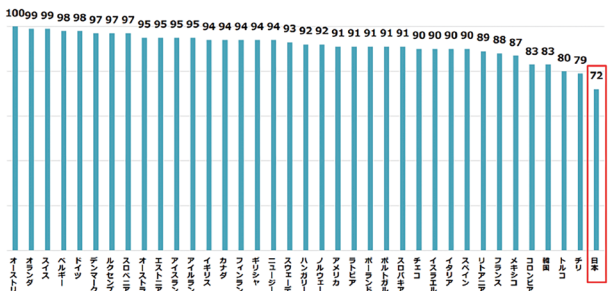
ければならないことかもしれません。

最後に、5.海外留学の促進の「①海外留学の拡大と段階に応じた留学支援の強化」の項目では、日本人学生の海外留学(海外留学支援制度等)の強化、とあります。小学校段階での留学はごく少ないと思いますが、中高大学と進むにつれて子ども達にとって留学はひとつの選択肢となります。アメリカやカナダへの留学のためには、英語力の証明が不可欠になり、TOEFL iBT®スコアを提出する割合が多くなります。小学校教師としては、少し先のことはあるのですが、そういったことも頭に入れて、子どもを望ましい方向に導くことも大事な仕事になります。具体的には、英語や外国の文化に興味のある子ども達に、TOEFL Primary®テストという試験があるということを紹介し、一度受験してはどうだろうかと勧めてみるということです。小学校の段階から TOEFL®テストに慣れて、継続して受験する子どもが増えれば、日本全体の英語力(関係データ②参照)を必ず押し上げることができると思います。

**関係データ②**

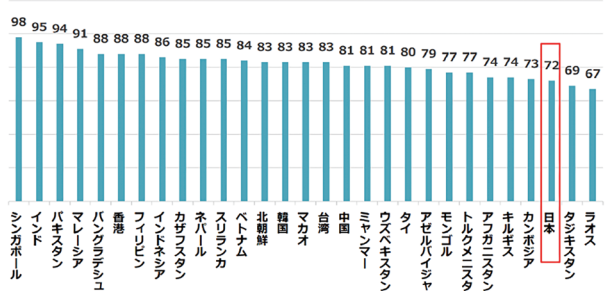
✓ 各国における受験者数や受検者層は異なるため、スコア差が各国の英語力差をそのまま表しているわけではないことに留意が必要ではあるが、各種の英語資格・検定試験において、我が国の平均スコアは諸外国の中で最下位クラス。

**TOEFL iBT®の合計スコア平均 (OECD加盟国)**



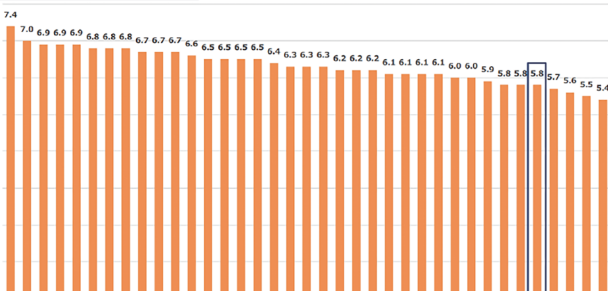
※各国の受験者数は非公表  
 ※各国における受験者数や受検者層は異なるため、スコア差が各国における英語能力差をそのまま表しているわけではないことに注意

**TOEFL iBT®の合計スコア平均 (アジア)**



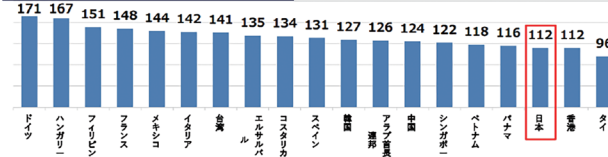
※CEFRとTOEFL iBT®との関係: C1;120-95 B2;94-72 B1;71-42 ※ TOEFL iBT®の満点は120  
 【出典】 TOEFL iBT® Test and Score Data Summary 2019を基に大学振興課で作成

**IELTS™の合計スコア平均**

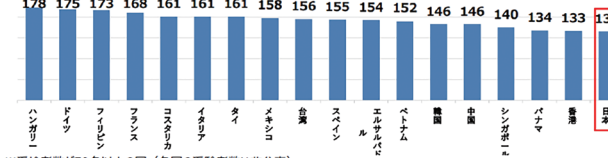


※受験者数が上位40の国 (各国の受験者数は非公表)  
 ※各国の受験者数や受検者層は異なるため、スコア差が各国における英語能力差をそのまま表しているわけではないことに注意  
 ※CEFRとIELTS™との関係: C2;9.0-8.5 C1;8.0-7.0 B2;6.5-5.5 B1;5.0-4.0 ※ IELTS™の満点は9.0  
 【出典】 IELTS™ Test taker performance 2019を基に大学振興課で作成

**TOEIC® Speaking Test スコア平均**



**TOEIC® Writing Test スコア平均**



※受験者数が50名以上の国 (各国の受験者数は非公表)  
 ※各国の受験者数や受検者層は異なるため、スコア差が各国における英語能力差をそのまま表しているわけではないことに注意  
 ※CEFRとTOEIC Speaking & Writing Testsとの関係: C1;180~ B2;150~ B1;120~ A2; S90~ W70~ A1; S50~ W30~ ※ TOEIC S & Wの満点は各200  
 【出典】 2019 Report on Test Takers Worldwide: TOEIC Speaking & Writing Tests を基に大学振興課で作成

## 5.最後に

最後に、教師の立場から見た TOEFL Primary® テストの良さをまとめたいと思います。

- 子どもをほめ、学習意欲を高めるきっかけとなる
- 学習環境を進化させるきっかけとなる
- 子どもの夢を膨らませることにつながる

- 結果を児童理解と授業改善に役立てる
- 受験していない子どもへの波及効果が期待できる

これからも実践を積み重ねる中でどのような新たな気付きがあるのか楽しみにしています。

## 参考文献

(1)大臣官房総務課(2022).「英語教育・日本人の対外発信力の改善に向けて(アクションプラン)」. 文部科学省. [https://www.mext.go.jp/content/20220808-mxt\\_kouhou01-000024386\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220808-mxt_kouhou01-000024386_01.pdf), (参照2022-08-08).

## 著者紹介

梅本 龍多 (うめもと りゅうた)

1996年4月1日大阪府河内長野市立天野小学校が文部省(当時)研究開発学校の指定を受け、小学校における英語教育のあり方の研究をはじめた当時から英語担当を努めた。

2007年2月には、「平成18年度文部科学大臣優秀教員表彰」を受ける。

2009年4月1日から、関西大学初等部で英語主任を務める。これまで小学校の英語活動の指導時間は10,000時間を越える。また、「欽ちゃんの仮装大賞」にも児童、保護者と一緒に24回出場し、優勝1回、準優勝2回を記録している。

*Danke Sehr*